



江差追分

～心沸き立つ、魂の唄～



江差追分は、「江差の5月は江戸にもない」とまで謳われたほど鯨漁で栄華を極めた時代に、本州と江差を往来していた北前船の船頭や船子（船員）たちによって伝わったとされる。唄の源流は、信州の馬子唄（木挽き唄）と言われ、江差の海の調べや花街文化、種々の民謡が混合し現在の形が完成した。江差町に根付いた江差追分は、地域の行事や日常生活の中で老若男女問わず唄い継がれた。「一度聞いて惚れ、二度聞いて酔い、三度聞いて涙する」と言われるほどの唄の魅力により、国内外に愛好者を持ち全国大会も継続して開催されるなど、日本を代表する民謡である。